

## 三宅島

### ○概況（平成17年6月）

火山活動はやや活発で、多量の火山ガス放出が続いています。

山頂火口では今後も山麓に降灰をもたらす程度の小規模な噴火が発生する可能性があります。二酸化硫黄を含む多量の火山ガス放出はしばらく継続すると考えられますので、風下にあたる地区では引き続き火山ガスに対する警戒が必要です。また、雨による泥流にも注意が必要です。

表1 三宅島 火山情報発表状況

火山情報名	発表日時	概要
火山観測情報第301号 ↓(1日2回発表) 火山観測情報第360号	1日 09:30 ↓ 30日 16:30	噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想

### ○火山ガス放出の状況

二酸化硫黄の放出量は、2002年秋以降1日あたり3,000～10,000トン程度で推移していました。その後、2004年秋以降には1日あたり2,000～5,000トン程度とやや少なくなりましたが、現在も依然として多量の火山ガス放出が続いています（表2、図1）。

表2 三宅島 山頂火口からの二酸化硫黄放出量と火口内最高温度

観測実施日	二酸化硫黄放出量(日量)	火口内最高温度	協力機関
6月7日	2,500トン 2,800トン 2,900トン 4,300トン	—	警視庁

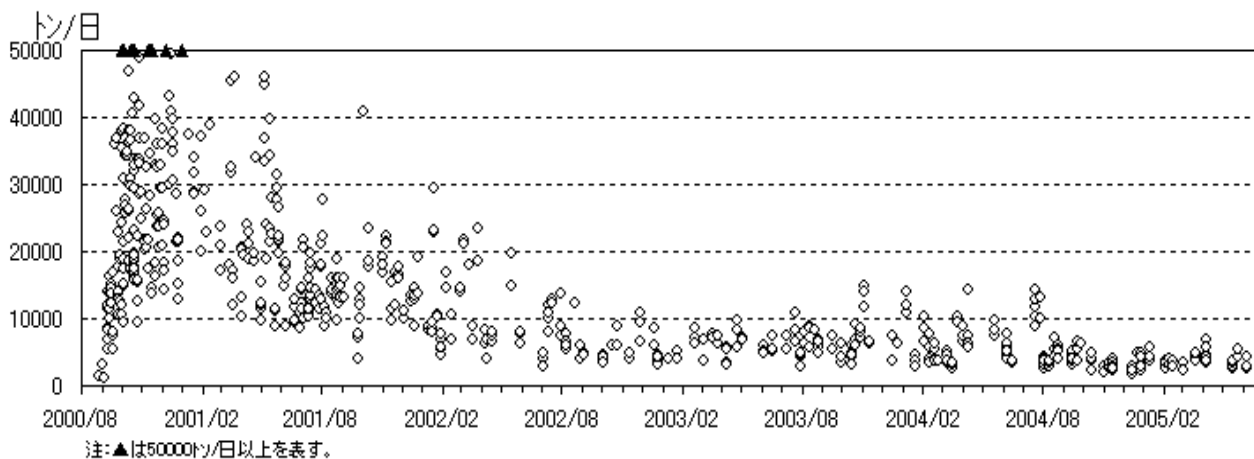


図1 三宅島 山頂火口からの二酸化硫黄放出量(2000年8月26日～2005年6月30日)

二酸化硫黄放出量の観測は陸上、海上及び航空自衛隊、海上保安庁、東京消防庁、警視庁の協力を得て行っています。

### ○山頂火口内の状況

上空からの観測によると、今期間の火口内最高温度（表 2、図 2）は、雲のため観測できませんでしたが、火口周辺の地形には大きな変化はありませんでした。

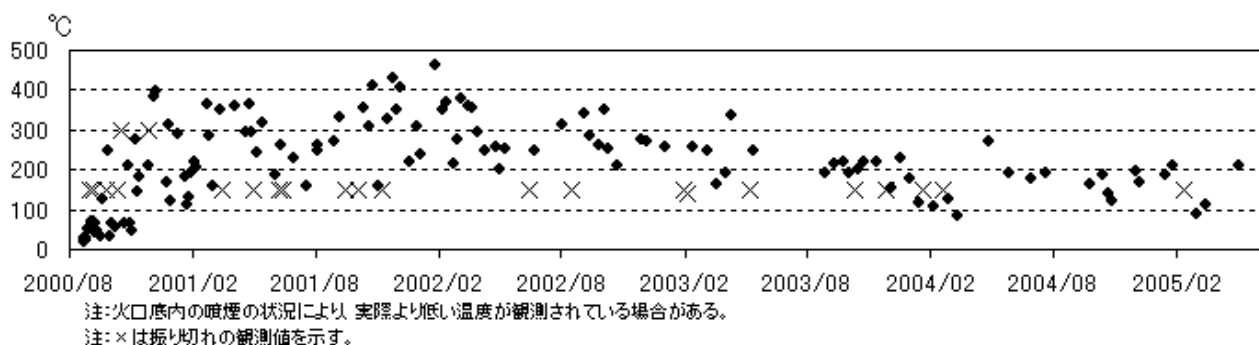


図2 三宅島 山頂火口内の最高温度の推移(2000年8月26日～2005年6月30日)

上空からの観測は陸上、海上及び航空自衛隊、海上保安庁、東京消防庁、警視庁の協力を得て行いました。

### ○噴煙活動の状況

山頂火口からは白色噴煙が連続的に噴出しており、噴煙活動は依然として活発な状態が続いています。期間中の噴煙高度の最高は火口縁上 500m（2、18 日）でした（図 3）。

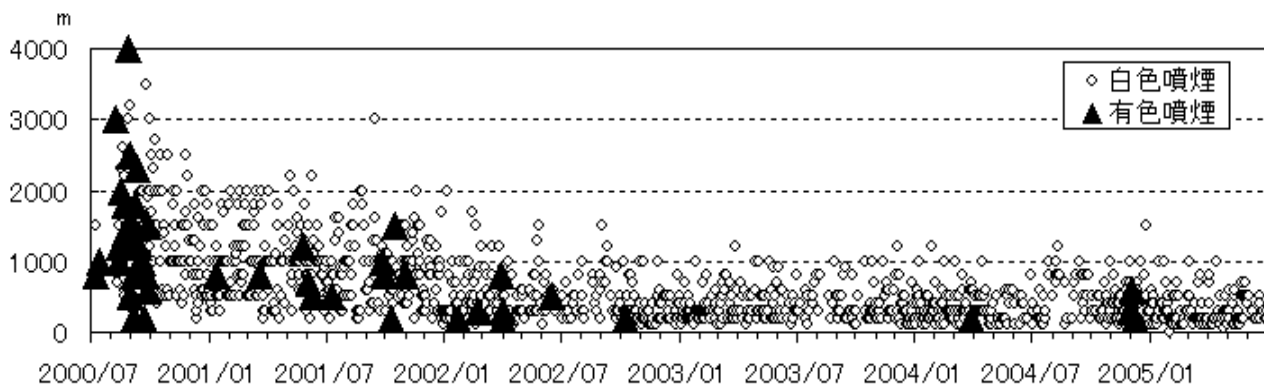


図3 三宅島 日別最高噴煙高度(2000年7月8日～2005年6月30日)

○地震及び微動の発生状況

期間中の地震回数はやや少ない状態が続き、1日あたり0～29回で経過しました（表3、図4）。

表3 三宅島 日別地震回数

上旬	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	旬計	
高周波地震	0	3	2	2	1	0	1	1	0	1	11	
やや低周波地震	24	1	1	4	1	2	3	2	0	0	38	
低周波地震	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
中旬	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	旬計	
高周波地震	0	0	3	2	1	0	0	0	1	3	10	
やや低周波地震	2	0	1	1	4	3	22	5	1	2	41	
低周波地震	0	0	0	0	0	0	4	2	0	0	6	
下旬	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	旬計	月計
高周波地震	1	0	1	7	1	2	1	1	8	2	24	45
やや低周波地震	1	4	3	22	9	1	8	2	2	7	59	138
低周波地震	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	7

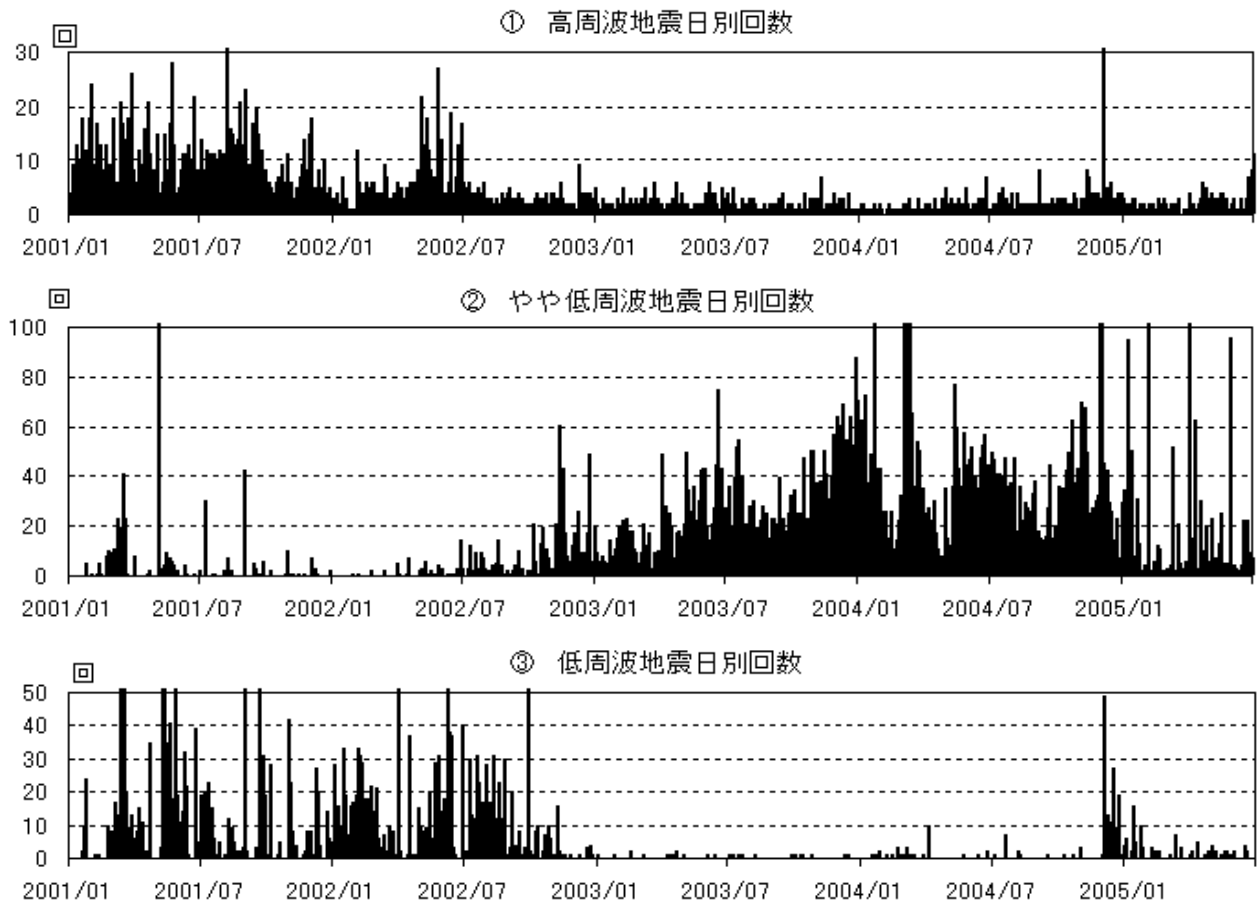


図4 三宅島 日別地震回数（2001年1月1日～2005年6月30日）

○地殻変動の状況

G P S 連続観測によると、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなりながら、現在も継続しています (図 5)。

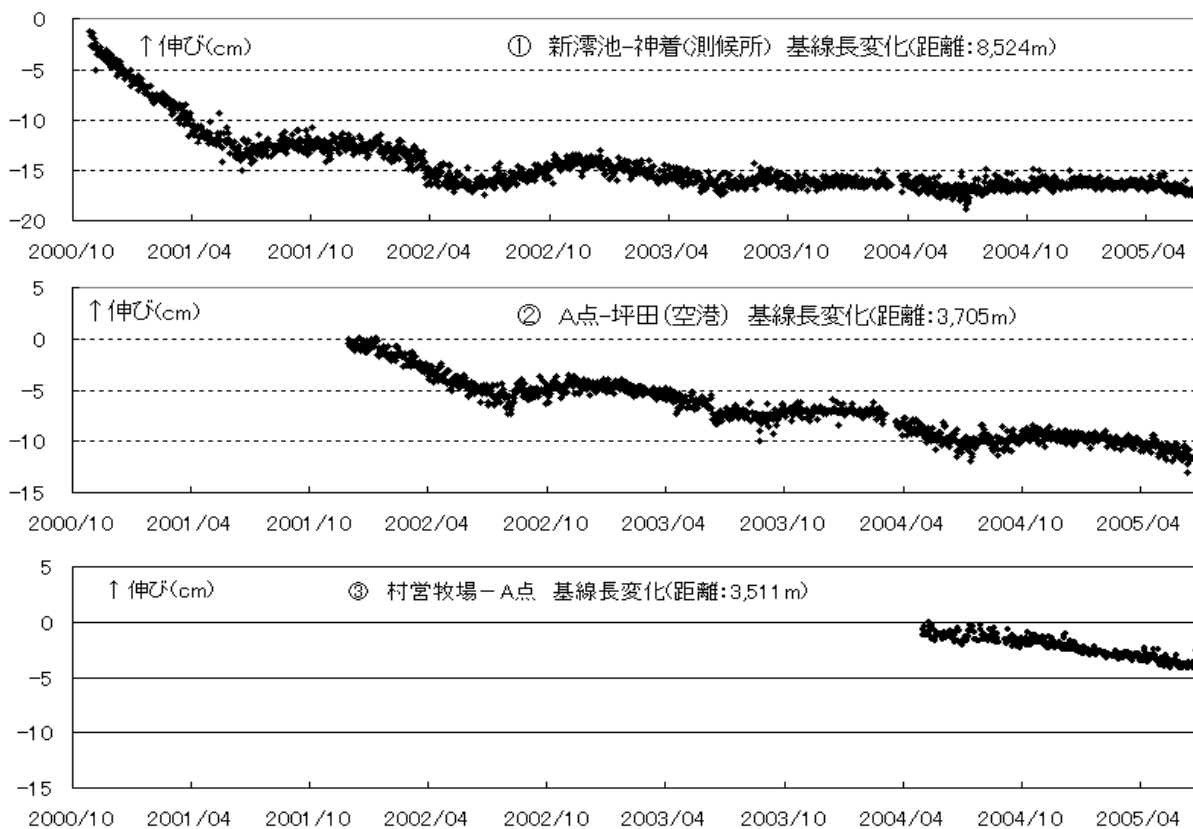


図5 三宅島 GPS連続観測による基線長変化 (2000年10月1日~2005年6月30日)

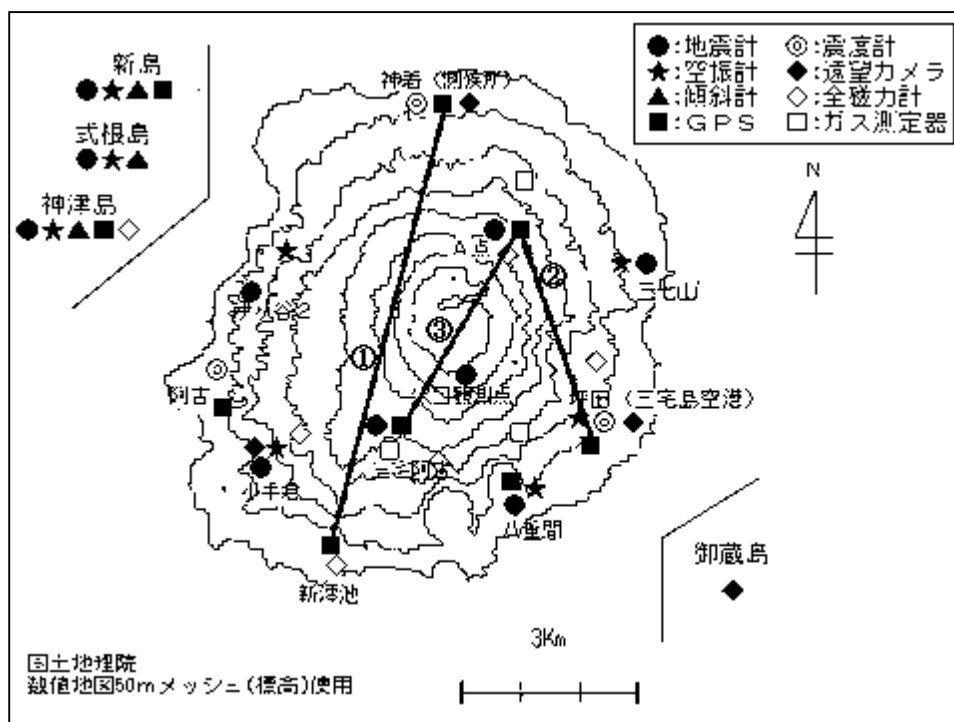


図6 三宅島 気象庁の観測点配置図